

令和 6 年度予算 反対討論

議席番号 4 番の久松祐樹です。議案第 24 号「令和 6 年度杉戸町一般会計予算」に対する反対討論をさせていただきます。反対する理由は、「マイナンバーカード代理申請等補助者謝礼」「肥大化する民生費」の 2 点です。

はじめに、「マイナンバーカード代理申請等補助者謝礼」でございます。当予算は介護施設を利用されている方のマイナンバーカードの代理申請をしたら町から 1 回 2000 円の謝礼が出るというものです。厚労省から各施設に通達がいつているようですが、介護施設を利用されているご本人の意思確認を行った上で代理申請をすることは良いと思います。しかし、代理申請をしたら、町から謝礼が出ることには疑問が残ります。介護従事者等が役所に代理申請をすることは他にもあります。例えば、ケアマネージャーが「要介護認定」の申請を代行できますが、これに謝礼を渡しているとは聞いたことがありません。なぜ、マイナンバーカードの代理申請のみに謝礼を支払うのでしょうか。これは公平性という観点から、疑問があります。ですから、こちらは改める必要があると思います。実施していない近隣の市町村の対応の仕方を参考に、改めることを要望させていただきます。

次に、肥大化する民生費でございます。福祉に関連する費用が増加し、令和 6 年度は、(歳入) 町税が 55 億 8183 万 2 千円、(歳出) 民生費が 58 億 5374 万 7 千円であり、民生費が町税総額を越えました。差し引きマイナス 2 億 7191 万 5 千円であり、もし杉戸町が民間企業であれば倒産です。現在の税制上、町の財源のみで財政を維持することは非常に困難であり、国からの補助も多く受けておりますが、すでに国の借金は 1200 兆円以上となっており、また日銀の金融緩和もインフレの影響で修正を迫られ、今後は利払い費の増加も予見されます。そうした中で、国から補助金を引っ張ってきて、それで『国庫は空っぽになっても、自分たちの町が満ち足りていればよい』とか、『町が黒字だったら、国庫が空っぽでも構わない』とか「こういう考え方に万が一、陥ってしまうことは気をつけるべきではないでしょうか。国民所得に占める税金や社会保険料の割合は 46.8%にもなりました。町民の負担は増える一方です。現在のように収入の約半分しか手元に残らないのであれば、真面目に働こうとする人のやる気が削がれてしまいます。中国春秋時代の哲学者である老子の言葉に「人に魚を与えれば一日で食べてしまうが、釣り方を教えれば一生食べていける」という考え方がございます。努力が報われやすくなり、自助の精神からの発展が大切であると考えております。本当に困っている人を支えることは大切です。しかし、財源には限りがあり、優しすぎる町政は破綻します。自由な意志による努力の継続で経済的繁栄を目指すべきであり、民生費の上限額を定めることを要望させていただきます。例えばアメリカでは、財政規律を守るために歳出上限が定められており、こうした考え方は必ずしも突飛なもの

ではありません。わが町の場合では、特に民生費が著しく増加しており、また、今後も少子高齢化によって、上昇傾向であると考えられます。従いまして、町の持続可能な財政のためにも、民生費の上限ルールを検討する必要があると考えております。以上を反対討論いたします。